

滿鐵を語る

南滿洲鐵道株式會社總裁

松岡洋右著

滿鐵總裁 松岡洋右著

滿鐵を語る

第一出版社版

(製本・大野)

昭和十二年五月一日印刷
昭和十二年五月五日發行

不 許
複 製

「滿鐵を語る」

定價八十錢

著 者 松 岡 洋 右

發行者 植 村 友 彦

東京市目黒區下目黒二ノ三七二

印刷者 百 目 木 智 璉

東京市目黒區三崎町二ノ二

發 賣 所

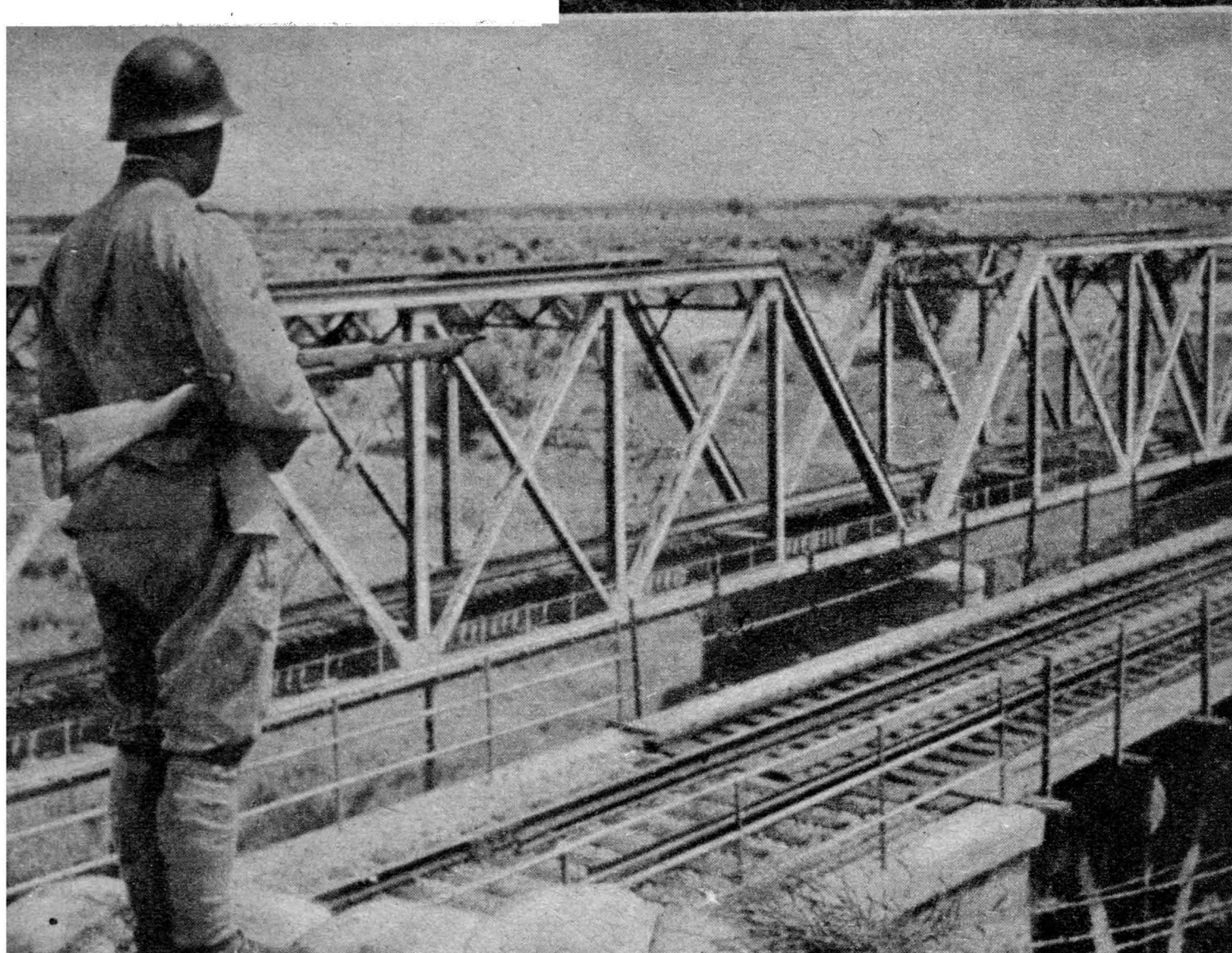
東京市目黒區下目黒二ノ三七二
第 一 出 版 社

電話高輪六八八〇番
振替東京二一七三三



忠 勇 義 烈

白玉山表忠塔（旅順）



皇軍の鐵道守備



「アジア」急特超

は し が き

滿鐵創業以來早くも三十年の歳月を閲した。允文允武 明治大帝の御鴻謨の程は申すも畏し、吾忠勇十萬英靈の碧血の上に、不拔に打据ゑられたる皇猷恢宏の生命線こそは、實に吾等の滿鐵であつた。

想望三十年！ 幾起伏幾波瀾を過程しつゝ、而も克く今日の隆運を效せる所以のものは、まさしく上聖明の御稜威と、下翼賛の任に鞠躬したる先輩の籌畫宜しきを制し、加ふるに吾國朝野の支援、及び全滿鐵社員が終始一貫常に國策に殉じ、使命に斃るゝの熱誠に俟つものと信ずる。竊かに想ふ。年齒十有二、少年純情の日に於て皇國の國際的地位の劣勢と「治外法權」の屈辱に紅頬を濡らし、赤心國運の隆昌を念禱したる予は、十四の陽春海を越えて渡米し、翌年日清砲火相交ふるの報をば、萬里異域の街頭に於て聴取したのであつた。而も老大虚偽の國より發する虚報は逸早く皇軍の不利を傳へ、ために真相の分明するまでの幾日、予をして殆ど九陽寸

斷の想ひあらしめた。

往時、米國の一般たる、吾國に對する認識の缺如は言ふも更なり、甚だしきに至つては、日本を支那の屬領視する非禮漢の横行するも亦、如何ともなし難き状態であつた。如何に況や日東君子國が尨大支那を一蹴するといふが如き明斷を下すものとしては、皆無なりしといふも過言ではない。然るに吾等の日本は、海陸共に連戰連勝、疾風枯葉を捲くの慨を以て彼に迫り、遂に支那をして周章和を乞はしむるに至つた顛末は周知の如くである。

列國驚駭の裡、更に強露を征するに及んで國威維れ揚り、國運は飛躍し、予もまた成長した。かくて廿五歳にして外務省に職を奉じ、廿七歳足跡を滿洲に印してより、匆忙三十有餘年！鬢邊霜を加ふるの今日迄、出入共に滿洲及滿鐵の經營に參畫し來つた。予は遯りつゝ尙これを道ふ。

*

*

*

いまや盟邦肇國五周年、國礎愈々固く、建業日に旺んなるを直視しつゝ、吾滿鐵の創業三十

周年を迎ふ。感慨盡くるところを知らぬ。

洵に吾等の滿鐵三十年史は、直に滿洲發達史の主要斷面を形成し、其將來の展望たる、使命、より多端にして、業運、より多彩なるべきを豫想せしめられる。予は此機會に於て、既往を回顧しつゝ聊か年來の抱負を述べて見たいと想ふ。

昭和十二年三月

松岡洋右述

目次

は し が き 一

日本—滿洲—滿鐵 七

一、吾 が 回 想 一七

二、滿洲國一瞥 一九

三、嚴肅なる記録 二三

日清戦争より日露戦役まで 二七

一、日 清 戦 争 二七

二、三 國 干 渉 三九

三、列強の利権爭奪 三一

四、支那の迷夢	三四
五、日露戦争	三七
六、人あり來りて道ふ	四〇
七、明治天皇の御製二首	四六
八、滿鐵の登場	四九

滿洲を中心とする國際關係

一、露西亞の極東進出	五三
イ、一貫せる傳統	五三
ロ、露支邊境接衝	五四
ハ、沿海州併吞	六〇
ニ、鐵道の敷設と不凍港の獲得	六六
ホ、野望止らず	七〇

ヘ、日露戦役と露國の敗退	七二
ト、其後の鐵道計畫	七二
チ、露西亞革命と東支鐵道	七三
リ、鐵道の讓渡と其後に來るもの	七五
二、米の觸手	七七
イ、立遅れた米國	七七
ロ、ハリマンからノックスまで	七九
ハ、四國借款團其他	八〇
ニ、華府會議	八三
三、英國と滿洲	八六
イ、滿支鐵道建設の先驅者	八六
ロ、英露の鐵道戰	八七

滿鐵の創立……………九〇

―滿鐵は如何にして設立されたか―……………九〇

仰ぎ見る二巨人……………九七

一、兒玉源太郎將軍……………九七

二、小村壽太郎侯……………一〇四

大器たりし後藤總裁……………一二七

一、就任前後事情……………一二七

二、優渥を賜はる……………一三八

三、大家族主義と社員會……………一二九

四、逸してはならぬことども……………一三三

滿鐵歷代首腦と社業の推移……………一三五

社業の今昔……………一四〇

一、資本の増額……………一四〇

二、社員の増加……………一四二

三、營業業 秆 數……………一四二

四、事業費總額……………一四三

五、營業收支の概要……………一四三

六、鐵道業況……………一四六

七、港灣施設……………一四九

八、炭礦業の變遷……………一五三

九、製油事業の開始……………一五五

二〇、旅 館 設 備	一五七
------------	-----

地方經營と文化開發	一五八
-----------	-----

一、地方施設事業費	一六〇
-----------	-----

二、各種學校別事業費と生徒數	一六三
----------------	-----

三、衛 生 施 設	一六三
-----------	-----

四、附屬地經營の意義と價值	一六九
---------------	-----

五、農產畜產の改良	一七三
-----------	-----

イ、滿洲大豆について	一七三
------------	-----

ロ、卓上一箇の林檎	一七六
-----------	-----

ハ、畜 産 改 良	一七六
-----------	-----

調査並に立案機關の諸業績	一八一
--------------	-----

一、調 査 課	一八
二、經 濟 調 査 會	一三
三、東亞經濟調查局	一四
四、北滿經濟調查所	一六
五、中央試驗所	一六
六、農事試驗場	一七
七、地質調查所	一八
八、衛生研究所	一九
九、獸疫研究所	一九
一〇、滿蒙資源館	一九
社外事業に對する投資	一五
一、關係會社投資の沿革	一五